



STUDIO MANAGER

for DM2000

取扱説明書

この説明書をお読みになったあとは、保証書とともに保管してください。



著作権について

このソフトウェアあるいは本取扱説明書のどの部分のいかなる方法での複製・配布も、ヤマハ株式会社の文書による承認がない限り、これを禁じます。

商標について

Macintosh, AppleおよびPower Macintoshは、米国Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における登録商品です。

Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商品です。

Mac OSは米国Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における商標です。

Intel, PentiumおよびCeleronはインテル社の商標および登録商標です。

OMSはOpcode System, Inc.の商標です。

Smart Media(スマートメディア)は(株)東芝の商標です。

その他記載の社名および製品名は、各社の商標および登録商標です。

YAMAHAホームページ:

<http://www.yamaha.co.jp/product/proaudio/>

不適切な使用や改造が原因による怪我や故障の場合、保証はいたしかねますのでご了承ください。

仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

ご注意

- ・ 巻末にこのソフトウェアのソフトウェア使用許諾契約が記載されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこのライセンス契約をお読みください。CD-ROMを開封すると、この契約に同意したことになります。
- ・ このソフトウェアおよびインストールガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ このソフトウェアおよびインストールガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。

目次

1	操作の前に	1
	はじめに	1
	CD-ROM の内容	1
	ソフトウェアの動作環境	2
	ソフトウェアの Windows へのインストール	3
	ソフトウェアの Macintosh へのインストール	7
	OMS のセットアップについて (USB を使用する場合)	10
	DM2000 への接続	12
	Studio Manager の起動	13
	Studio Manager の終了	13
	Studio Manager の設定	13
	Studio Manager のオンライン / オフライン操作	14
2	コンソールウィンドウ	15
	インプットチャンネル	16
	マスターセクション	18
	マスターレイヤーチャンネル	20
3	選択チャンネルウィンドウ	22
	インプットチャンネル	22
	バスアウト	24
	AUX センド	25
	ステレオアウト	27
	MATRIX センド	28
	リモートチャンネル	29
4	パッチエディターウィンドウ	30
	INPUT PATCH ページ	30
	OUTPUT PATCH ページ	31
	INSERT PATCH ページ	32
	EFFECT PATCH ページ	33
	DIRECT OUT PATCH ページ	34
5	サラウンドエディターウィンドウ	35
6	GEQ エディターウィンドウ	36
7	タイムコードカウンターウィンドウ	37
8	キーボードのショートカット	38
	索引	39
	ソフトウェアのご使用条件	40

第1章 操作の前に

はじめに

ヤマハ Studio Managerを使って、コンピュータ上でDM2000パラメーターのコントロールや表示ができます。

本書ではStudio Managerのインストールと操作方法について説明します。DM2000の操作方法については、DM2000取扱説明書をお読みください。

CD-ROMの内容

Windows用

フォルダ名	ソフト名	内容
Acroread_¥Japanese	Acrobat Reader 5.0 (*1) (*2)	アプリケーションソフトのPDFマニュアルをコンピュータ上で閲覧できるようにします。
SM_	Studio Manager for DM2000 (*1)	DM2000のパラメーターをコンピュータ上でコントロール、表示できるようにします。
Card_	Card Filer (*1)	DM2000のメモリーカード(SmartMedia™)内にあるファイルをお持ちのコンピュータに送受信できます。
Mididrv_	YAMAHA CBX Driver	DM2000とお持ちのコンピュータとシリアル接続するのに必要なドライバーソフトです。
USBdrv_	YAMAHA USB MIDI Driver (Win98、Me用)	DM2000とお持ちのコンピュータとUSB接続するのに必要なドライバーソフトです。
USBdrv2k_	YAMAHA USB MIDI Driver (Win2000、XP用)	DM2000とお持ちのコンピュータとUSB接続するのに必要なドライバーソフトです。

*1. これらのソフトウェアには、電子(PDF)マニュアルがついています。操作方法等は電子マニュアルを御覧ください。

*2. このソフトウェアはヤマハではサポートしません。

Macintosh用

フォルダ名	ソフト名	内容
Acroread_¥Japanese	Acrobat Reader 4.0 (*1) (*2)	アプリケーションソフトのPDFマニュアルをコンピュータ上で閲覧できるようにします。
SM_	Studio Manager for DM2000 (*1)	DM2000のパラメーターをコンピュータ上でコントロール、表示できるようにします。
Card_	Card Filer (*1)	DM2000のメモリーカード(SmartMedia™)内にあるファイルをお持ちのコンピュータに送受信できます。
OMS_	Open Music System (OMS) 2.3.8 (*1) (*2)	Mac OS上で音楽アプリケーションを使用できるようにします。
	OMS Setup for YAMAHA	DM2000用のOMSセットアップのサンプルファイルが入っています。
USBdrv_	YAMAHA USB MIDI Driver	DM2000とお持ちのコンピュータとUSB接続するのに必要なドライバーソフトです。

*1. これらのソフトウェアには、電子(PDF)マニュアルがついています。操作方法等は電子マニュアルを御覧ください。

*2. このソフトウェアはヤマハではサポートしません。

ソフトウェアの動作環境

Windows動作環境

Studio Manager for DM2000

コンピューター	433MHz以上のIntel® Pentium®またはCeleron™ファミリーのプロセッサを搭載したパーソナルコンピューター
OS	Windows® 98SE/Me/2000/XP Home Edition/XP Professional Edition
メモリ	128MB以上
ハードディスク	20MB以上の空きスペース
ディスプレイ	1024×768ドット 256色以上(1280×1024ドット High Color 16 bit推奨) 注意:1024×768にて使用する場合、「タスクバーを自動的に隠す」設定をしてください。

注:OSによっては上記以上の条件を満たす必要があります。

Card Filer

コンピューター	100MHz以上のIntel® Pentium®またはCeleron™ファミリーのプロセッサを搭載したパーソナルコンピューター
OS	Windows® 95/98/98SE/Me/NT4.0/2000/XP Home Edition/XP Professional Edition
メモリ	8MB以上
ハードディスク	2MB以上の空きスペース
ディスプレイ	800×600ドット以上 256色以上

注:OSによっては上記以上の条件を満たす必要があります。

YAMAHA USB MIDI Driver

コンピューター	USB端子を装備した、166MHz以上のIntel® Pentium® またはCeleron™ ファミリーのプロセッサを搭載したパーソナルコンピューター
OS	Windows® 98/98SE/Me/2000/XP Home Edition/XP Professional Edition
メモリ	32MB以上
ハードディスク	2MB以上の空きスペース

注:OSによっては上記以上の条件を満たす必要があります。

YAMAHA CBX Driver

OS	Windows® 95/98/98SE/Me/NT4.0/2000/XP Home Edition/XP Professional Edition
----	---

上記以外のソフトウェアの動作環境はそれぞれのソフトウェア付属のオンラインマニュアルを参照ください。

Macintosh動作環境

Studio Manager for DM2000

コンピューター	USB端子を装備したG3/233MHz以上のMacintoshコンピューター
OS	Mac OS 8.6以上 9.2.2以下(Mac OS Xは含まず)
メモリ	空きメモリ50MB以上 注意:仮想メモリーはOFFにしてください。
ハードディスク	7MB以上
ディスプレイ	“ 1024×768ドット 256色以上(1280×1024ドット 32,000色以上推奨)”
その他	OMS 2.3.3以上が必要 注意:OMS MIDI Setupで「Run in Background」にチェックを入れてください。

注:Power Bookを電池駆動でお使いの場合は「省エネルギー設定」にて「プロセッササイクリングを許可する」のチェックを外してお使いください。

Card Filer

コンピューター	PowerPC以上を搭載したMacintoshコンピューター
OS	漢字Talk 7.5以上 9.2.2以下(Mac OS Xは含まず)

メモリ	空きメモリ8MB以上
ハードディスク	6MB以上
ディスプレイ	800×600ドット 256色以上

YAMAHA USB MIDI Driver

コンピューター	USB端子を装備した、PowerPC以上を搭載したMacintoshコンピューター
OS	Mac OS 8.6以上 9.2.2以下(Mac OS Xは含まず)
メモリ	実メモリ64MB以上(128MB以上推奨)
ハードディスク	2MB以上

上記以外のソフトウェアの動作環境はそれぞれのソフトウェア付属のオンラインマニュアルを参照下さい。

ソフトウェアのWindowsへのインストール

Acrobat Reader 5.0のインストール

各アプリケーションに付属の PDF マニュアルをコンピューター上で見るために、あらかじめこのソフトウェアをインストールする必要があります。

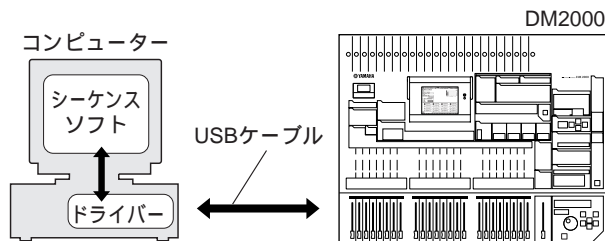
ノート: Acrobat Reader 5.0の前のバージョンがすでにコンピューターにインストールされている場合は、このバージョンをインストールする前に、前のバージョンのものをアンインストールしてください。

- 1 “Acroread_”フォルダをダブルクリックします。
“ar500jpn.exe”という実行ファイルが表示されます。
- 2 “ar500jpn.exe”をダブルクリックします。
Acrobat Readerのセットアップダイアログが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。
インストール後、コンピューターコンピューター上(デフォルトでは Program Files)に Acrobat のフォルダが追加されます。
操作については[ヘルプ]メニューの[Readerオンラインガイド]をご参照ください。

USB MIDI ドライバーのインストール

DM2000をコンピューターにて実際に使用するためには、コンピューターにドライバーを正しくインストールする必要があります。

USB MIDI ドライバーは、Studio ManagerなどからUSB ケーブルを通じて、DM2000にMIDI 信号を送信したり、逆にDM2000からStudio ManagerなどにMIDI 信号を送信したりするためのソフトウェアです。



Windows 98/Meをお使いの場合	4ページ
Windows2000をお使いの場合	5ページ
WindowsXPをお使いの場合	6ページ

ノート: USB MIDI ドライバーをインストールする前に、下記の状態にしておく安全です。

- ・ アプリケーションや使っていないウィンドウは、すべて閉じる。
- ・ ドライバーをインストールするケーブル以外で DM2000 に接続されているケーブルを、すべて外しておく。

Windows98/Meへのインストール

お使いのCD-ROMドライブのドライブ名(D:、E:、Q: など)をあらかじめご確認ください。ドライブ名は「マイコンピュータ」の中のCD-ROMアイコンの下に表示されています。(CD-ROMドライブのルートディレクトリはそれぞれD:¥、E:¥、Q:¥、などになります。)

- 1 コンピューターを起動します。
- 2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。
- 3 DM 2000の電源がオフになっていることを確認した上で、コンピューター(またはUSBハブ)のUSB端子とDM2000のUSB端子を、USBケーブルを使って接続します。続いてDM2000の電源を入れると、コンピューター画面に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

ノート: Windows Meをお使いの場合は、「適切なドライバーを自動的に検索する(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて「次へ」をクリックします。ドライバーの検索とインストールが自動的に始まりますので、手順8へお進みください。ドライバーが検出されない場合は、「ドライバーの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、CD-ROMドライブのルートディレクトリ(D:¥など)を指定してインストールしてください。

Windows 98



Windows Me



- 4 「次へ」をクリックします。
検索方法を選択する画面が表示されます。
- 5 「使用中のデバイスに最適なドライバーを検索する(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、「次へ」をクリックします。
ドライバーのインストール元を選択する画面が表示されます。

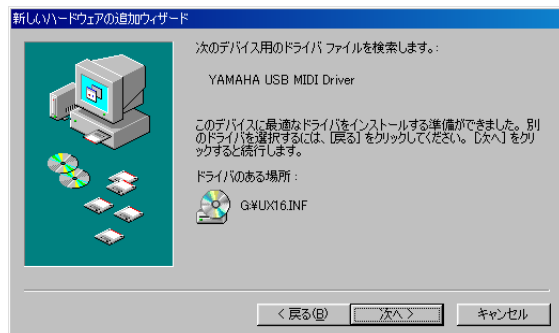


- 6 「CD-ROM ドライブ」にチェックを入れ、それ以外の項目はすべてチェックを外します。
「次へ」をクリックします。

ノート: ドライバーの検出中にWindowsのCD-ROMを要求してくる場合がありますが、読み込み先としてCD-ROMドライブの「USBdrv_」ディレクトリ(D:¥USBdrv_¥など)を指定してインストールを続行してください。

ノート: Windows 98の場合、読み込み先としてCD-ROMドライブの「USBdrv_」ディレクトリ(D:¥USBdrv_¥)などを直接指定してください。

- 7 CD-ROM 中のドライバーを検出し、インストールの準備が完了すると、右の画面が表示されます。「YAMAHA USB MIDI Driver」が表示されていることを確認後、[次へ]をクリックします。インストールが始まります。



- 8 インストールが終わると、次の画面が表示されます。

Windows 98



Windows Me



- [完了] をクリックします。

ノート: コンピューターによっては、インストール終了後この画面が表示されるまでに 10 秒近くかかる場合があります。

これで、ドライバーのインストールは完了しました。

Windows 2000へのインストール

- 1 コンピューターを起動して、administrator 権限のあるアカウントで Windows2000 にログインします。
- 2 [マイコンピュータ] [コントロールパネル] [システム] [ハードウェア] [ドライバーの署名] [ファイルの署名の確認] で「無視 - ファイルの署名に関係なく、すべてのファイルをインストールする」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[OK] をクリックします。
- 3 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。
- 4 DM2000の電源がオフになっていることを確認した上で、コンピューター(またはUSBハブ)のUSB端子とDM2000のUSB端子を、USBケーブルを使って接続します。続いてDM2000の電源を入れると、コンピューター画面に「新しいハードウェアの検索ウィザード」が自動的に表示されます。[次へ] をクリックします。
- 5 「デバイスに最適なドライバーを検索する(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。
ドライバーのインストール元を選択する画面が表示されます。

- 6 「CD-ROM ドライブ」にチェックを入れ、それ以外の項目はすべてチェックを外します。
[次へ] をクリックします。

ノート: ドライバーの検出中にWindowsのCD-ROMを要求してくる場合がありますが、読み込み先としてCD-ROMドライブの「USBdrv2k」ディレクトリ(D:\USBdrv2k_¥など)を指定してインストールを続行してください。

- 7 インストールが終わると、「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されます。
[完了] をクリックします。

ノート: コンピューターによっては、インストール終了後この画面が表示されるまでに10秒近くかかる場合があります。

- 8 コンピューターを再起動します。
これで、ドライバーのインストールは完了しました。

Windows XPへのインストール

- 1 コンピューターを起動します。

- 2 [スタート] [コントロールパネル] をクリックします。

コントロールパネルが右のような表示のときは、画面左上の「クラシック表示に切り替える」をクリックします。すべてのコントロールパネルとアイコンが表示されます。



- 3 [システム] [ハードウェア] [ドライバーの署名] [ドライバー署名オプション] で「無視—ソフトウェアをインストールし、確認を求めない(1)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[OK] をクリックします。

- 4 [OK] をクリックしてシステムのプロパティを閉じてから、画面右上の「X」をクリックしてコントロールパネルを閉じます。

- 5 CD-ROMドライブに、付属のCD-ROMを挿入します。

- 6 DM2000の電源がオフになっていることを確認した上で、コンピューター(またはUSBハブ)のUSB端子とDM2000のUSB端子を、USBケーブルを使って接続します。続いてDM2000の電源を入れると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が自動的に表示されます。

- 7 「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)(1)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。
インストールが始まります。

- 8 インストールが終わると、「新しいハードウェアの検出ウィザードの完了」と表示されます。
[完了] をクリックします。

ノート: コンピューターによっては、インストール終了後この画面が表示されるまでに10秒近くかかる場合があります。

- 9 コンピューターを再起動します。
これで、ドライバーのインストールは完了しました。

Card Filerのインストール

Card Filerをインストールすると、コンピューターにDM2000のデータを保存したりすることができます。

- 1 「Card_」フォルダをダブルクリックします。「Setup.exe」などのファイルが表示されます。
- 2 「Setup.exe」をダブルクリックします。YAMAHAカードファイラーのセットアップダイアログが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。コンピューター上(デフォルトでは Program Files)に[YAMAHA]フォルダが追加され、その中にカードファイラーのフォルダが生成されます。

操作についてはフォルダ内の「カードファイラーマニュアル」をご参照ください。

CBX ドライバーのインストール

- 1 「Mididrv_」フォルダをダブルクリックします。「Setup.exe」などのファイルが表示されます。
- 2 「Setup.exe」をダブルクリックします。YAMAHA CBX Driverのセットアップダイアログが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。

Studio Manager for DM2000のインストール

- 1 「SM_」フォルダをダブルクリックします。「Setup.exe」などのファイルが表示されます。
- 2 「Setup.exe」をダブルクリックします。Studio Manager for DM2000のセットアップダイアログが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。

ソフトウェアのMacintoshへのインストール

Acrobat Reader 4.05のインストール

各アプリケーションに付属のPDFマニュアルをコンピューター上で見るために、あらかじめこのソフトウェアをインストールする必要があります。コンピューターにすでに Acrobat Reader 4.05以上がインストールされている場合は再インストールする必要はありません。

- 1 “ Acrobat_ ”フォルダをダブルクリックします。
“ Japanese Reader Installer (インストーラー) ”が表示されます。
- 2 “ Japanese Reader Installer ”をダブルクリックします。
Acrobat Readerのセットアップダイアログが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。
インストールが完了したら、コンピューター上(デフォルトではハードディスク上)に“ Adobe Acrobat ”フォルダが追加されます。

操作についてはヘルプメニューの「アクロバットのヘルプ」をご参照ください。

Open Music System(OMS)2.3.8のインストール

Mac OS 上で複数の音楽アプリケーション(MIDI データ)を使用できるようにします。コンピュータにすでにOMSがインストールされている場合は再インストールする必要はありません。

- 1 “ OMS_ ”フォルダをダブルクリックします。
“ Install OMS 2.3.8 (インストーラー)”が表示されます。
- 2 “ Install OMS 2.3.8 ”をダブルクリックします。
OMSのセットアップダイアログが表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。
インストールが完了したら、コンピュータの再起動を選択します。

ノート: インストール終了時に、以下の内容のメッセージが表示されることがあります。
“ アプリケーションを終了することができませんでした。”
このようなメッセージが表示された場合は、ファイルメニューから[終了]を選択してインストーラーを終了し、コンピュータを再起動してください。

再起動後、コンピュータ上(デフォルトではハードディスク上)に“ Opcode / OMS アプリケーション ”フォルダが追加されます。

- 4 CD-ROM 内の“ OMS 2.3J_Manual.pdf ”をドラッグ&ドロップで、“ OMS アプリケーション ”フォルダにコピーします。

操作についてはこの“ OMS 2.3J_Manual.pdf ”をご参照ください。

OMS 2.3J_Manual.pdfは日本語用OMSのマニュアルですが、本CD-ROMのOMSのバージョンは最新版(2002年1月現在)の英語版が同梱されています。英語のマニュアルはOMS_2.3_Mac.pdfになります。

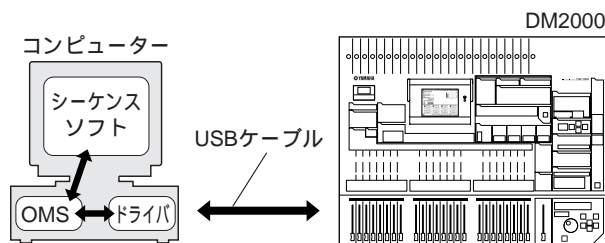
- 5 CD-ROMの“ OMS Setup for YAMAHA ”フォルダを“ OMSアプリケーション ”フォルダにドラッグ&ドロップでコピーします。

この“ OMS Setup for YAMAHA ”フォルダには、DM2000用のOMSセットアップファイルが入っています。お持ちの音源のセットアップファイルをテンプレートとしてご使用ください。

USB-MIDIドライバーのインストール

DM2000をコンピュータにて実際に使用するためには、コンピュータにドライバーを正しくインストールする必要があります。

USB MIDI ドライバーは、Studio ManagerなどからUSB ケーブルを通じて、DM2000にMIDI 信号を送信したり、逆にDM2000からStudio ManagerなどにMIDI 信号を送信したりするためのソフトウェアです。



USB-MIDI ドライバーをインストールする前に、OMS がインストールされている必要があります。また、ドライバーインストール後に、OMSのセットアップ(12ページ)が必要になります。

- 1 コンピューターを起動します。
- 2 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。デスクトップにCD-ROMのアイコンが表示されます。

- 3 CD-ROMのアイコンをダブルクリックして開き、「USBdrv_」フォルダの「Install USB Driver」のアイコンをダブルクリックします。

インストール画面が起動します。

- 4 「Install Location (インストール場所)」というボックスに、インストール先が表示されます。インストールするディスクやフォルダを変えたい場合は、「Switch Disk」(ディスク切り替え)やプルダウンメニューを使い、インストール先を選択してください。

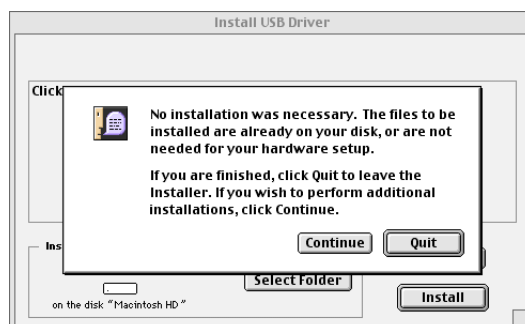


ノート: 通常は起動ディスクが自動的に表示されるので、インストール先を変更する必要はありません。

- 5 「Install」(インストール)をクリックすると、「ソフトウェアインストール後、コンピューターを再起動する必要があります。」「Continue」をクリックすると、すべてのアプリケーションが自動的に終了します。」という英語のメッセージが表示されます。「Continue」をクリックしてください。

ノート: インストールを中止したい場合は、「Cancel」をクリックしてください。

- 6 インストールが開始されます。ドライバがすでにインストールされている場合、以下のようなメッセージが表示されます。手順3にもどる場合は「Continue」を、インストールを終了する場合は「Quit」(終了)をクリックします。



- 7 インストールが終わると、「インストールは完了しました。コンピューターを再起動する必要があります。」という英語のメッセージが表示されますので、「Restart」(再起動)をクリックしてください。自動的にコンピューターが再起動します。

また、以下の場所にそれぞれのファイルがインストールされているのを確認することができます。

- ・ 「システムフォルダ」:「コントロールパネル」:「YAMAHA USB MIDI Patch」
- ・ 「システムフォルダ」:「機能拡張」:「USB YAMAHA MIDI Driver」
- ・ 「システムフォルダ」:「OMS Folder」:「YAMAHA USB MIDI OMS Driver」

Card Filerのインストール

Card Filerをインストールすると、コンピューターにDM2000のデータを保存したりすることができます。

- 1 「Card_」フォルダをダブルクリックします。「Card Filerインストーラー」が表示されます。
- 2 「Card Filerインストーラー」をダブルクリックします。「Card Filerのセットアップダイアログ」が表示されます。
- 3 画面の指示に従ってインストールを実行します。インストール後、コンピューター上(デフォルトではハードディスク上)に「Card Filer 1.0.3 for DM2000」のフォルダが追加されず。

操作については各フォルダ内の「Card Filer Manual.pdf」をご参照ください。

Studio Manager for DM2000のインストール

- 1 「SM_」フォルダをダブルクリックします。「Install Studio Manager」のファイルが表示されます。
- 2 「Install Studio Manager」をダブルクリックします。
Studio Manager for DM2000のインストールダイアログが表示されます。
画面の指示に従ってインストールを実行します。

OMSのセットアップについて(USBを使用する場合)

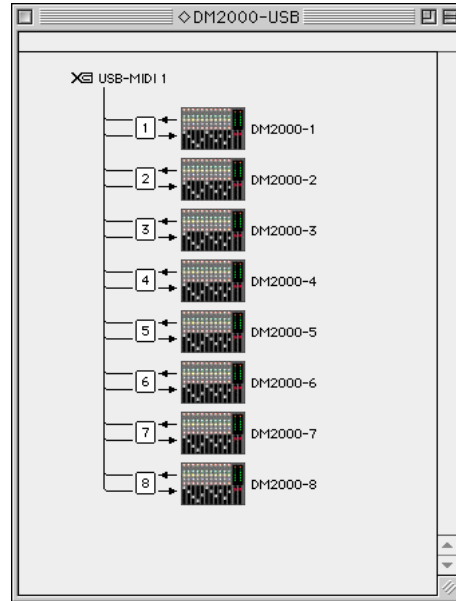
CD-ROMの中には、DM2000専用のOMSスタジオセットアップファイルが同梱されています。
OMSのセットアップにはこのスタジオセットアップファイルを使用します。

ノート: 事前にOMSと、USBドライバーで接続する場合はUSB- MIDIドライバーをインストールしている必要があります(8ページ)

- 1 USBケーブルを使用して、コンピューター(またはUSBハブ)のUSB端子と、DM2000のUSB端子を接続します。
DM2000の電源を入れ、電源LEDが点灯していることを確認します。
- 2 コンピューターを起動します。
- 3 CD-ROMドライブに付属のCD-ROMを挿入します。デスクトップにCD-ROMのアイコンが表示されます。
- 4 CD-ROMのアイコンをダブルクリックして開き、「OMS」フォルダ「OMS Setup for YAMAHA」フォルダの中にある、「DM2000- USB」スタジオセットアップファイルをハードディスクにコピーします。
USBを使わずにシリアル接続する場合は、以下のファイルをコピーしてお使いください。
 - ・「DM2000-Printer」
プリンターポートを使ったシリアル接続の場合に使用します。
 - ・「DM2000-Modem」
モデムポートを使ったシリアル接続の場合に使用します。
- 5 「DM2000-USB」スタジオセットアップファイルをダブルクリックして、OMS Setup を起動します。

注意: シリアル接続を行う場合、OMS SetupのPreference画面にて「Use Apple Serial DMA driver when available」のチェックボックスをOFFにしてください。

- 6 OMS Setup が起動すると、先ほど立ち上げたスタジオセットアップファイルが開きます。タイトルバーに表示されたファイル名の先頭に「 」が表示されていることを確認してください。



「DM2000-USB」スタジオセットアップファイルの場合

ノート: 「 」が表示されない場合には、「ファイル」メニュー 「セットアップを有効にする」を選択します。「 」の表示を確認後、保存します。

これで、OMSのセットアップは完了です。

ノート: 上記のスタジオセットアップを行なった場合、DM2000 のみが認識されます。DM2000以外の楽器をUSB接続する場合や、すでにOMSを使用していて新たにDM2000をシステムに加える場合などは、独自のスタジオセットアップを作成する必要があります。詳しくは、付属の「OMS2.3J_Manual.pdf」などをご参照ください。

前述の操作を行なっても、お使いのMacintoshやOSのバージョンによっては、添付のDM2000用スタジオセットアップファイルが動作しないことがあります。(セットアップが有効になっても、MIDIの送受信はできません。)

この場合、以下の手順でセットアップファイルを作り直してください。

- 1 DM2000 と Macintosh を USB あるいはシリアル接続し、DM2000 の電源を入れておきます。
- 2 OMS Setup を起動し、「ファイル」メニューより「新規セットアップ」を選びます。
- 3 OMS ドライバー検索ダイアログが表示されますので、シリアル接続の場合は[Modem]または[Printer] をチェックします。USB接続の場合は、どちらもチェックをはずしておきます。
- 4 [検索] ボタンをクリックし、デバイスの検索を行ないます。
デバイスの検索に成功すると、OMSドライバー設定ダイアログで以下のように表示されます。
USB接続の場合: USB-MIDI 1
シリアル接続の場合: MIDI Time Piece-Modem(Printer)
 - ・ デバイスを正しく検索できた場合は、[OK] ボタンをクリックして次にすすみます。
 - ・ デバイスを正しく検索できなかった場合は、ケーブルの接続などを再確認し、手順1から作業をやり直してください。
- 5 検索されたデバイスの下にポートが見えていることを確認します。(DM2000 の場合、USB-MIDI、Modem、Printer などという名称になります。) ポートのチェックボックスをチェックしたのち、[OK] ボタンをクリックします。

- 6 設定ファイルを保存するダイアログが表示されますので、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。

これでOMSのセットアップは完了です。

- 7 「スタジオ」メニューの「テスト」を選び、ポートのアイコンをクリックします。

DM2000の任意のチャンネルが発音すれば正しく動作しています。

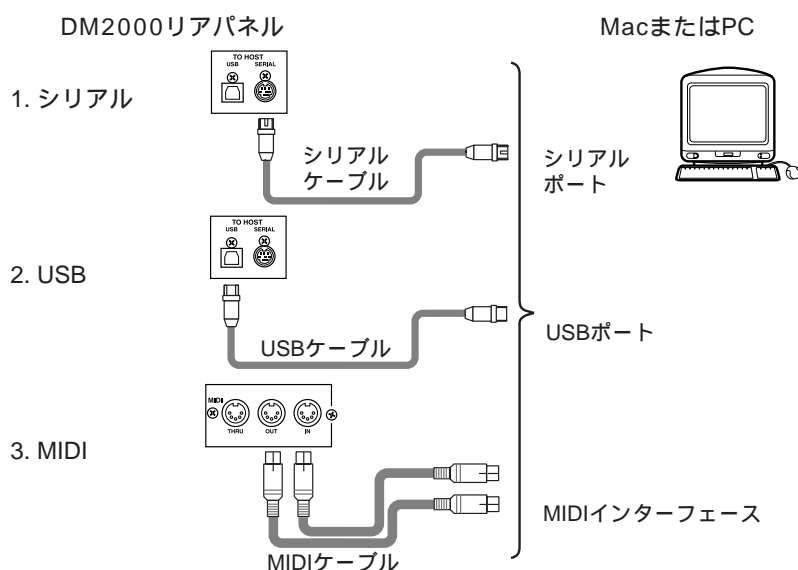
OMSの使用方法についての詳細は、OMSに付属のOMS2.3J_Manual.pdf、もしくはOMS_2.3_Mac.pdfをご参照ください。

DM2000への接続

DM2000にはコンピュータへ接続できる3種類のポート(シリアル、MIDI、USB)があります。

- 1 Studio Managerとのやりとりを確立したいポートとIDをDM2000上で選択します。
ポートとIDを選択するには、DM2000のMIDI/TO HOST SETUPページを表示させ、適宜選択します。シリアルポートでDM2000を接続する場合は、コンピュータのシリアルポートに合ったタイプ(PC-2またはMacintosh)を選択してください。詳細は、DM2000の取扱説明書をご参照ください。
- 2 コンピュータを終了しDM2000の電源をオフにしてから、コンピュータをDM2000に接続します。

USBポートでDM2000を接続する場合は電源をオフにする必要はありません。



Studio Managerの起動

Macintosh コンピュータをお使いの場合は、Studio Manager フォルダを開き、「YAMAHA Studio Manager for DM2000」をダブルクリックします。

Windows のコンピュータをお使いの場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム YAMAHA Studio Manager DM2000 Studio Manager for DM2000] を選択します。

以下の画面が最初に表示され、数秒間初期化を行ってからコンソールウィンドウが開きます。




Studio Managerの終了

「File」メニューから「Quit」を選択します。

変更内容がすべて保存されていれば、ウィンドウが閉じStudio Manager が終了します。一部でも変更内容が保存されていないと、その内容を保存したいかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[Yes] をクリックして、その内容を保存してから終了するか、[No] をクリックして変更内容を保存せずに終了します。あるいは、[Cancel] をクリックして操作を中止します。



Macintosh ではコンソールウィンドウの左上にある四角いクローズボタン、Windows では右上にある  印の入ったクローズボタンをクリックしても、Studio Manager を終了できません。

Studio Managerの設定

Studio Manager がDM2000と通信できるようにするには、入出力ポートとコンソールデバイスIDを設定する必要があります。

ポートの選択

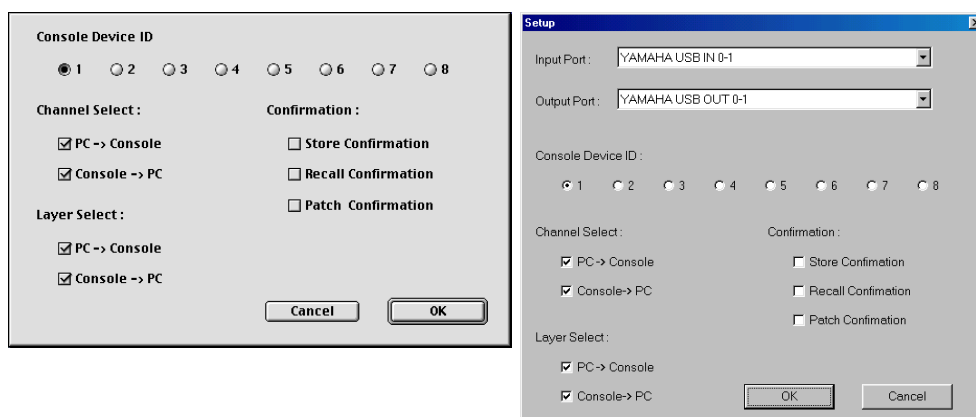
Macintosh 上でポートを選択するには、「File」メニューから「Select OMS Ports(OMSポートの選択)」を選びます。「File」メニューでは「OMS MIDI Setup」、「OMS Studio Setup」、「System Setup」ダイアログにもアクセスできます。詳細はOMSの説明書をご参照ください。「System Setup」ダイアログはOMSとは別なので、次のセクションで説明します。

Windows 上でポートを選択するには、「File」メニューから「Setup」を選びます。

「System Setup」ダイアログ

このダイアログを開くには、「File」メニューから選択します。ここでは8種類のコンソールデバイスIDから一つを選択します。通信したいDM2000のIDとここで選択するIDが必ず同じであることを確認してください。このダイアログからは、DM2000 上でのチャンネル/レイヤー選択に対するStudio Managerからのコントロールと、Studio Manager内のチャンネル/レイヤー選択に対するDM2000からのコントロールをオン/オフできます。また、DM2000上でのパッチ操作をその都度確定するかどうかを選択します。Windows上のダイアログでは、Studio Managerの入出力ポートも選択できます。

以下の左の画面がMacintosh版、右がWindows版です。



Studio Managerのオンライン / オフライン操作

Studio Managerを起動すると初期設定を使用した新規セッションが開き、コンピュータに接続され電源が入っているDM2000があるかどうかを検索されます。有効なDM2000が検出されると、Studio Managerセッションの設定をDM2000に転送したいか(PC → Console)、あるいはDM2000の設定をStudio Managerセッションに転送したいか(Console → PC)、全く転送しないか(CANCEL)を選択するメッセージが表示されます。適宜選択すると、コンソールウィンドウのONLINE/OFFLINEインジケータで、Studio Managerのオンライン / オフライン状態を表示します。



ノート: Studio Managerがオンラインに切り替わる間はDM2000を操作しないでください。DM2000とStudio Managerが確実に同じ設定になるよう、ONLINE/OFFLINEインジケータがONLINEに切り替わるのを待ってください。

DM2000が検出されないとメッセージは表示されず、初期設定を使用した新規セッションが開きます。Studio Managerを起動してから有効なDM2000が検出された場合は、上記のメッセージが表示されます。

後でオンライン / オフライン設定を変更したい場合は、Studio Managerの「Synchronization」メニューから「Re-synchronize...」を選択すると、上記のメッセージが表示されます。

一度に開くことのできるStudio Managerセッションは一つのみです。セッションがすでに開いていて、別のセッション(以前保存したセッションまたは新規セッション)を開こうとすると、「続行するには現在のセッションを上書きすることが必要」という内容の警告メッセージが表示されます。Studio Managerがオフラインでこの操作を続行すると、別のセッションがロードされます。一方、Studio Managerがオンラインで続行すると、セッションがロードされるとともに、上記のメッセージが表示されて、そのセッション設定をDM2000に転送するか、DM2000から転送するか(これはアンドゥ機能として使えます)、あるいはまったく転送しないかを選択することになります。

このメッセージウィンドウには「All Lib」チェックボックス選択肢があり、これを使用して、ライブラリーの設定と内容を転送するか、ライブラリーの設定を転送しないかを指定できます。

注意: 本ソフトウェアのバージョン1.0ではDM2000とライブラリー情報をセッションファイルとして保存できますが、ライブラリーウィンドウがないのでライブラリーに関する編集はできません。

注意: DM2000本体側でLibraryのSortを行った場合は、All Libにチェックをし、Re-synchronizeを実行して、DM2000と同期をかけないとStudio Manager内に保存されているLibraryの順番が更新されません。

第2章 コンソールウィンドウ

コンソールウィンドウはStudio Managerのメインとなる画面で、Studio Managerを起動すると開きます。この画面にはミキサーチャンネル全体が表示され、ほとんどの機能をここで操作します。このウィンドウはチャンネルセクションとマスターセクションに分かれています。チャンネルセクションには一度に一つのレイヤー(24チャンネル分)を表示します。レイヤーはマスターセクションの[LAYER]ボタンで選択します。

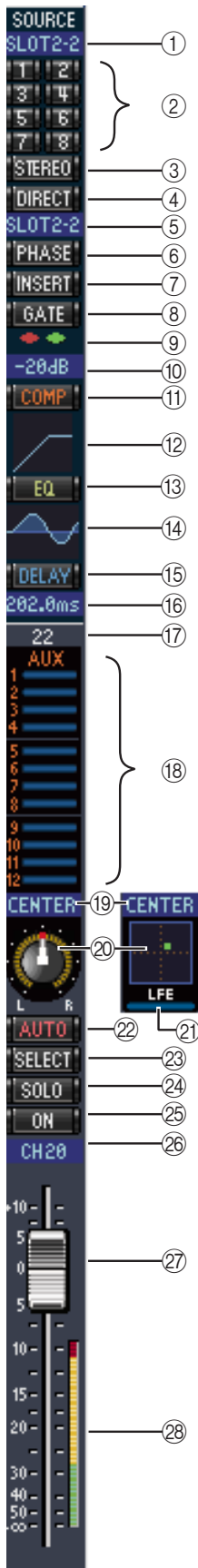


チャンネルセクション

マスターセクション

インプットチャンネル

以下はコンソールウィンドウのインプットチャンネルです。



- ① SOURCEパラメーター
このパラメーターをクリックして表示されるリストからインプットソースを選択します。
- ② バスアウトルーティングボタン
インプットチャンネル信号をバスアウトへ送ります。
- ③ [STEREO]ボタン
インプットチャンネル信号をステレオアウトへ送ります。
- ④ [DIRECT]ボタン
ダイレクトアウトへ送られるインプットチャンネル信号をオン / オフします。
- ⑤ ダイレクトアウト送り先
このパラメーターをクリックして表示されるリストから、ダイレクトアウトの送り先を選択します。
- ⑥ [PHASE]ボタン
チャンネル信号の位相を反転させます。
- ⑦ [INSERT]ボタン
インプットチャンネルインサートをオン / オフします。
- ⑧ [GATE]ボタン
インプットチャンネルのゲートをオン / オフします。
- ⑨ ゲート開閉インジケーター
ゲートがオンになっているとき、ゲートが開いているか(緑)閉まっているか(赤)を表示します。
- ⑩ ゲートスレッシュホールドディスプレイ
ゲートのスレッシュホールド設定を表示します。スレッシュホールド値はドラッグして設定します。
- ⑪ [COMP]ボタン
インプットチャンネルのコンプレッサーをオン / オフします。
- ⑫ コンプレッサー曲線
コンプレッサーの曲線を表示します。
- ⑬ [EQ]ボタン
インプットチャンネルの4バンドパラメトリックイコライザーをオン / オフします。
- ⑭ EQ曲線
イコライザーの曲線を表示します。曲線の設定はドラッグして行います。
- ⑮ [DELAY]ボタン
インプットチャンネルのディレイ機能をオン / オフします。
- ⑯ ディレイタイム
ディレイ機能のディレイタイムをドラッグして設定します。
- ⑰ チャンネル番号
チャンネル番号を表示します。
- ⑱ AUXセクション
12系統のAUXセンドのレベルを設定します。AUXセンドをオン / オフするには、該当するセンド番号をクリックします。またレベルを設定するには、AUXセンド番号の横にある棒グラフの先端をドラッグするか、グラフ上で任意のポイントをクリックします。



以下の表はAUXセンドの状態によって表示が異なる入力チャンネルのAUXセンドコントロールを示したものです。AUXセンドのプリフェーダー / ポストフェーダー切り替え方法は、19ページをご参照ください。

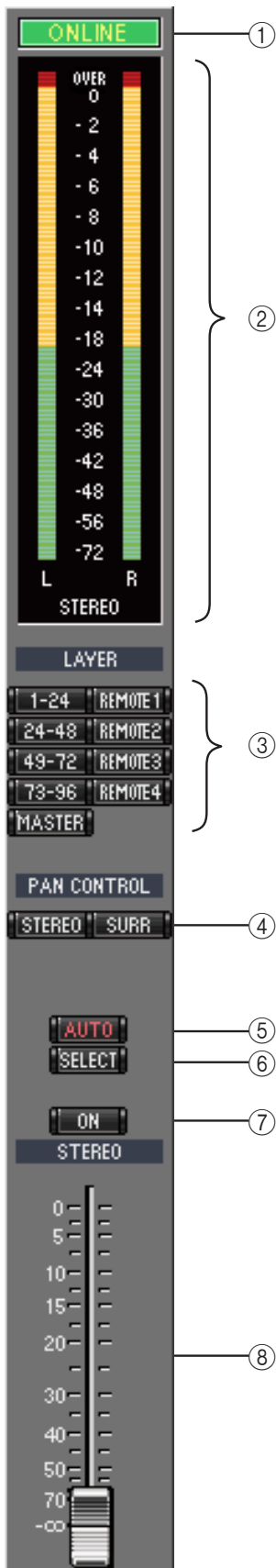
AUXセンドの状態	入力チャンネル上の棒グラフ
オンまたはオフ、レベルは未設定	濃紺の棒グラフ
オフ、プリフェーダー	緑色のアウトラインでレベルを表示
オン、プリフェーダー	緑色のグラフでレベルを表示
オフ、ポストフェーダー	オレンジ色のアウトラインでレベルを表示
オン、ポストフェーダー	オレンジ色のグラフでレベルを表示



- ⑲ パン / AUXセンド
ステレオ / サラウンドパンポジションを表示し、AUXセンドの設定中はAUXセンドレベルをdBで表示します。
- ⑳ パンコントロール
入力チャンネルのステレオまたはサラウンドパンポジションを設定します。マスターセクションの[PAN CONTROL]が STEREO のときはパンコントロールが回転ノブ表示となり、SURR のときはパングラフ上に丸印で表示されます。サラウンドパンポジションはこの丸印をドラッグして設定します。
- ㉑ [LFE]ディスプレイ
サラウンド LFE チャンネルレベルを設定します。マスターセクションの[PAN CONTROL]が SURR のときに表示されます。LFE レベルを設定するには、この棒グラフの先端をドラッグするか、グラフ上の任意の位置でクリックします。
- ㉒ [AUTO]ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ㉓ [SELECT]ボタン
入力チャンネルを選択します。
- ㉔ [SOLO]ボタン
入力チャンネルをソロにします。チャンネルをソロにするとこのボタンが橙色になります。
- ㉕ [ON]ボタン
入力チャンネルをオン / オフします。チャンネルがオンになるとこのボタンが橙色になります。
- ㉖ チャンネルのショートネーム
チャンネルのショートネームを表示します。名前を変更するには、クリックしてタイプします。
- ㉗ チャンネルフェーダー
入力チャンネルのレベルを設定します。
- ㉘ チャンネルメーター
入力チャンネルの信号レベルを表示します。

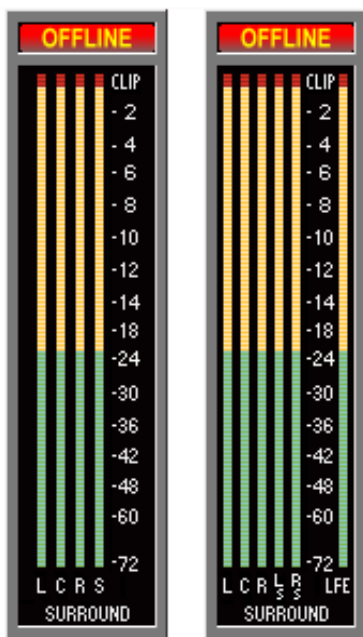
マスターセクション

マスターセクションはコンソールウィンドウの右側にあります。



- ① [ONLINE]/[OFFLINE]ステータスインジケータ
Studio Managerの通信状態を表示します。詳細は、14ページの「Studio Managerのオンライン/オフライン操作」をご参照ください。
- ② メーター(画面はステレオ例)
[PAN CONTROL]が STEREO のときは、ステレオアウトの出力レベルを表示し、SURRのときはバスアウトのレベルを表示します。サラウンドモード3-1および5.1でのメーター表示については、19ページをご参照ください。
- ③ [LAYER]ボタン
レイヤーを選択します。選択されたレイヤーのチャンネルがコンソールウィンドウのチャンネルセクションに表示されます。一度に一つのレイヤーのみを選択できます。
- ④ [PAN CONTROL]
STEREO(ステレオモード)か SURR(サラウンドモード)を選択します。インプットチャンネルのパンコントロールは、STEREO 選択時には回転ノブ表示となり、SURR選択中はパングラフ上に丸印で表示されます。
- ⑤ [AUTO]ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑥ [SELECT]ボタン
ステレオアウトを選択します。
- ⑦ [ON]ボタン
ステレオアウトをオン/オフします。オンにするとボタンが橙色になります。
- ⑧ チャンネルフェーダー
ステレオアウトのレベルを設定します。

マスターセクションのメーター



3-1

5.1

[PAN CONTROL] が SURR(サラウンドモード)になっていると、メーターにはサラウンド処理に使用されるバスアウトのレベルが表示されます。右のメーターは3-1および5.1サラウンドモードでの表示です。

3-1サラウンドモードでは、バスアウト1~4の各レベルがそれぞれ左、センター、右、サラウンドチャンネル(L、C、R、S)の順に表示されています。

5.1サラウンドモードでは、バスアウト1~6の各レベルがそれぞれ左、センター、右、左サラウンド、右サラウンド、低域エフェクトチャンネル(L、C、R、LS、RS、LFE)の順に表示されています。

マスターレイヤーチャンネル

マスターセクションでマスターレイヤーを選択すると、バスアウト、AUX センド、MATRIX センドが選択できます。以下はバスアウトの表示です。AUX センドと MATRIX センドには [STEREO] ボタンがありませんが、それ以外はバスアウトと同じ表示です。



- ① [STEREO] ボタン(バスアウトのみ)
バスアウトをステレオアウトに送ります。
- ② [INSERT] ボタン
バスアウトのインサートをオン/オフします。
- ③ [COMP] ボタン
バスアウトのコンプレッサーをオン/オフします。
- ④ コンプレッサー曲線
コンプレッサーの曲線を表示します。
- ⑤ [EQ] ボタン
バスアウトの4バンドパラメトリックイコライザーをオン/オフします。
- ⑥ EQ曲線
イコライザーの曲線を表示します。この曲線はドラッグして設定できます。
- ⑦ [DELAY] ボタン
バスアウトのディレイ機能をオン/オフします。
- ⑧ ディレイタイム
ディレイ機能のディレイタイムを設定します。ディレイタイムはドラッグして設定します。
- ⑨ チャンネル番号
チャンネル番号を表示します。
- ⑩ [AUTO] ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑪ [SELECT] ボタン
バスアウトを選択します。
- ⑫ [SOLO] ボタン
バスアウトをソロにします。ソロにするとこのボタンが橙色になります。
- ⑬ [ON] ボタン
バスアウトをオン/オフします。オンになるとこのボタンが橙色になります。
- ⑭ チャンネルのショートネーム
チャンネルのショートネームを表示します。名前を変更するには、クリックしてタイプします。
- ⑮ チャンネルフェーダー
バスアウトのレベルを設定します。
- ⑯ チャンネルメーター
バスアウトの信号レベルを表示します。

リモートレイヤーチャンネル

マスターセクションでリモートレイヤーを選択すると、リモートチャンネルが選択できます。

- ① チャンネル番号
チャンネル番号を表示します。
- ② [SELECT]ボタン
リモートチャンネルを選択します。
- ③ [ON]ボタン
リモートチャンネルをオン/オフします。オンになるとこのボタンが橙色になります。
- ④ チャンネルのショートネーム
チャンネルのショートネームを表示します。名前を変更するには、クリックしてタイプします。
- ⑤ チャンネルフェーダー
リモートチャンネルのレベルを設定します。



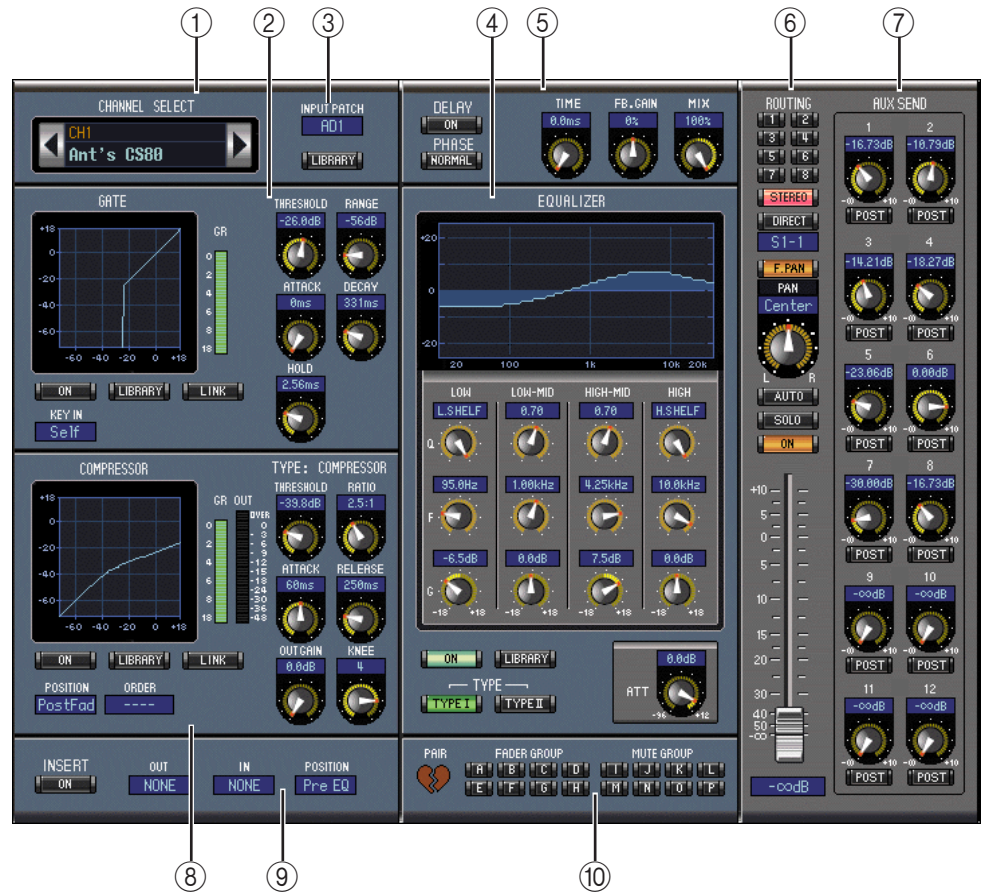
第3章 選択チャンネルウィンドウ

選択チャンネルウィンドウを開くには、「Windows」メニューから「Selected Channel」を選びます。選択チャンネルウィンドウでは、一つのチャンネルの詳細設定を表示、エディットします。表示内容は選択チャンネルによって異なり、以下の6種類のウィンドウがあります。

- ・ インットチャンネル(以下の項、参照)
- ・ バスアウト(24ページ参照)
- ・ AUXセンド(25ページ参照)
- ・ ステレオアウト(27ページ参照)
- ・ MATRIXセンド(28ページ参照)
- ・ リモートチャンネル(29ページ参照)

インットチャンネル

以下の画面はインットチャンネルの選択チャンネルウィンドウです。




① CHANNEL SELECTセクション

チャンネルを選択するには、チャンネルIDをクリックして表示されるリストから選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。このセクションにはチャンネルのロングネームも表示され、これをクリックしてタイプすることで名前を変更することもできます。本ソフトウェアのバージョン1.0では「LIBRARY」ボタンは無効となっています。

② GATEセクション

このセクションには選択中のインットチャンネルのゲートのコントロール類とグラフが表示されています。回転ノブでスレッシュホールドレベル、レンジ、アタック、ディケイ、ホールドタイムを設定します。ゲート曲線もグラフに表示されます。GRメーターはゲートに適用されるゲインリダクションのレベルを表示します。「ON」ボタンはゲートをオン/オフし、「LINK」ボ

タンで選択中のインプットチャンネルとその隣のチャンネルのゲートをペアに組みます。また、縦／横のペアを設定するペアモード設定もあります。チャンネルをペアに組むと、ペアをオフにするまでは [LINK] ボタンをオフにできません。KEY IN パラメーターはゲートのトリガーソースを選択します。本ソフトウェアのバージョン 1.0 では [LIBRARY] ボタンは無効となっています。

- ③ INPUT PATCH パラメーター
インプットソースを選択します。このパラメーターをクリックして表示されるリストから選びます。
- ④ EQUALIZER セクション
選択中のインプットチャンネルの 4 バンドパラメトリックイコライザーのコントロール類とグラフを表示します。回転ノブで各バンドのゲイン、中心周波数、Q とプリ EQ 減衰レベルを設定します。イコライザー曲線もグラフに表示され、ドラッグして設定できます。[ON] ボタンはイコライザーをオン / オフし、[TYPE] ボタンでイコライザーのタイプを選択します。本ソフトウェアのバージョン 1.0 では [LIBRARY] ボタンは無効となっています。
- ⑤ DELAY/PHASE セクション
選択中のインプットチャンネルのディレイ機能に使用するコントロール類が表示されます。回転ノブでディレイのかかった信号のディレイタイム、フィードバックゲイン、フィードバックミックスを設定します。[ON] ボタンでディレイ機能をオン / オフし、[PHASE] ボタンでチャンネルの信号位相を反転させます。
- ⑥ ルーティング / パン / レベル セクション
選択中のインプットチャンネルのルーティング、パンレベル、その他の機能のコントロール類を表示します。[ROUTING] ボタン (1 ~ 8) でチャンネルをバスアウトに送り、[STEREO] ボタンでチャンネルをステレオアウトに送ります。[DIRECT] ボタンはチャンネルからダイレクトアウトへのルーティングをオン / オフし、その下にあるパラメーターでダイレクトアウトの送り先を選択します。[F.PAN] ボタンはバスアウトのフォローパン機能をオン / オフし、[PAN] コントロールでステレオアウト / バスアウトでのチャンネルのパンポジションを設定します。[SOLO] ボタンはチャンネルをソロにし、[ON] ボタンでチャンネルをオン / オフします。チャンネルフェーダーはチャンネルのレベルを設定します。本ソフトウェアのバージョン 1.0 では [AUTO] ボタンは無効となっています。
- ⑦ AUX SEND セクション
選択中のインプットチャンネルの AUX センド用コントロール類を表示し、また AUX センドがペアになっているかをハートのマークで表示します。回転ノブでチャンネルの AUX センドレベルの設定とオン / オフ切替を行います。オン / オフを切り替えるには、回転ノブをクリックします。各 AUX センドの下にあるボタンを使用して、AUX センドをプリフェーダーかポストフェーダーに設定します。 
- ⑧ COMPRESSOR セクション
このセクションには選択中のインプットチャンネルのコンプレッサーのコントロール類とグラフが表示されています。回転ノブでスレッシュホールドレベル、圧縮比、アタック / リリースタイム、出力ゲイン、ニーシェイプを設定します。コンプレッサー曲線はグラフに表示されます。GR メーターはコンプレッサーで適用されるゲインリダクションのレベルを表示します。OUT メーターは出力レベルを示します。[ON] ボタンはコンプレッサーをオン / オフし、[LINK] ボタンで選択中のインプットチャンネルとその隣のチャンネルのコンプレッサーをペアに組みます。また、縦／横のペアを設定するペアモード設定もあります。チャンネルをペアに組むと、ペアをオフにするまでは [LINK] ボタンをオフにできません。POSITION パラメーターを使用して、選択インプットチャンネルの信号経路におけるコンプレッサーの位置を指定します。また、インサートとコンプレッサーが同じ位置に設定されているときは、ORDER パラメーターでそれぞれの順序を選択します。本ソフトウェアのバージョン 1.0 では [LIBRARY] ボタンは無効となっています。

⑨ INSERTセクション

選択中のインプットチャンネルのインサートに関するパラメーターを表示します。[INSERT] ボタンでインサートをオン/オフします。OUT/INパラメーターはチャンネルのインサートアウト、インサートインを選択し、POSITION パラメーターでインサートのチャンネル信号経路内での位置を指定します。

⑩ FADER GROUP/MUTE GROUPセクション

選択中のインプットチャンネルをフェーダーグループ/ミュートグループに割り当てるボタンを表示します。ハートマークをクリックすることでチャンネルとその隣のチャンネルをペアに組みます。



バスアウト

以下の画面はバスアウトの選択チャンネルウィンドウです。



① CHANNEL SELECTセクション

チャンネルを選択するには、チャンネルIDをクリックして表示されるリストから選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。このセクションにはチャンネルのロングネームも表示され、これをクリックしてタイプすることで名前を変更することもできます。本ソフトウェアのバージョン1.0では「LIBRARY」ボタンは無効となっています。

② EQUALIZERセクション

選択中のバスアウトの4バンドパラメトリックイコライザー用のコントロール類とグラフが表示されています。これはインプットチャンネルのイコライザーセクションと同じです。23ページをご参照ください。

③ DELAYセクション

選択中のバスアウトのディレイ機能に使用するコントロール類が表示されます。回転ノブでディレイタイムを設定し、[ON]ボタンでディレイ機能をオン/オフします。

- ④ パスアウトルーティング/パン/レベルセクション
 選択中のパスアウトのルーティング、パン、レベル機能のコントロール類を表示します。[TO STEREO] ボタンでバスからステレオへのルーティングをオン/オフし、回転ノブでバスからステレオへのレベルとパンポジションを設定します。[SOLO] ボタンはパスアウトをソロにし、[ON] ボタンでパスアウトをオン/オフします。チャンネルフェーダーはパスアウトのレベルを設定します。本ソフトウェアのバージョン1.0では [AUTO] ボタンは無効となっています。
- ⑤ COMPRESSORセクション
 このセクションには選択中のパスアウトのコンプレッサーのコントロール類とグラフが表示されています。インプットチャンネルのコンプレッサーセクションと同じです。23ページをご参照ください。
- ⑥ INSERTセクション
 選択中のパスアウトのインサートに関するパラメーターを表示します。[INSERT] ボタンでインサートをオン/オフします。OUT/IN パラメーターでチャンネルのインサートアウト、インサートインを選択し、POSITIONパラメーターでインサートのチャンネル信号経路内での位置を指定します。
- ⑦ FADER GROUP/MUTE GROUPセクション
 選択中のパスアウトをフェーダーグループ/ミュートグループに割り当てるボタンを表示します。ハートマークをクリックすることでチャンネルとその隣のチャンネルをペアに組みます。

AUXセンド

以下の画面はAUXセンドの選択チャンネルウィンドウです。



- ① CHANNEL SELECT セクション
 チャンネルを選択するには、チャンネルIDをクリックして表示されるリストから選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。

このセクションにはチャンネルのロングネームも表示され、これをクリックしてタイプすることで名前を変更することもできます。本ソフトウェアのバージョン1.0では[LIBRARY]ボタンは無効となっています。

- ② EQUALIZERセクション
選択中のAUXセンドの4バンドパラメトリックイコライザー用のコントロール類とグラフが表示されています。これはインプットチャンネルのイコライザーセクションと同じです。17ページをご参照ください。
- ③ DELAYセクション
選択中のAUXセンドのディレイ機能に使用するコントロール類が表示されます。回転ノブでディレイタイムを設定し、[ON]ボタンでディレイ機能をオン/オフします。
- ④ AUXセンドレベルセクション
選択中のAUXセンドのチャンネル[ON]ボタン、[SOLO]ボタン、チャンネルフェーダーを表示します。本ソフトウェアのバージョン1.0では[AUTO]ボタンは無効となっています。
- ⑤ COMPRESSORセクション
このセクションには選択中のAUXセンドのコンプレッサーのコントロール類とグラフが表示されています。インプットチャンネルのコンプレッサーセクションと同じです。23ページをご参照ください。
- ⑥ INSERTセクション
選択中のAUXセンドのインサートに関するパラメーターを表示します。[INSERT]ボタンでインサートをオン/オフします。OUT/IN パラメーターでチャンネルのインサートアウト、インサートインを選択し、POSITIONパラメーターでインサートのチャンネル信号経路内での位置を指定します。
- ⑦ FADER GROUP/MUTE GROUPセクション
選択中のAUXセンドをフェーダーグループ/ミュートグループに割り当てるボタンを表示します。ハートマークをクリックすることでチャンネルとその隣のチャンネルをペアに組みます。

ステレオアウト

以下の画面はステレオアウトの選択チャンネルウィンドウです。

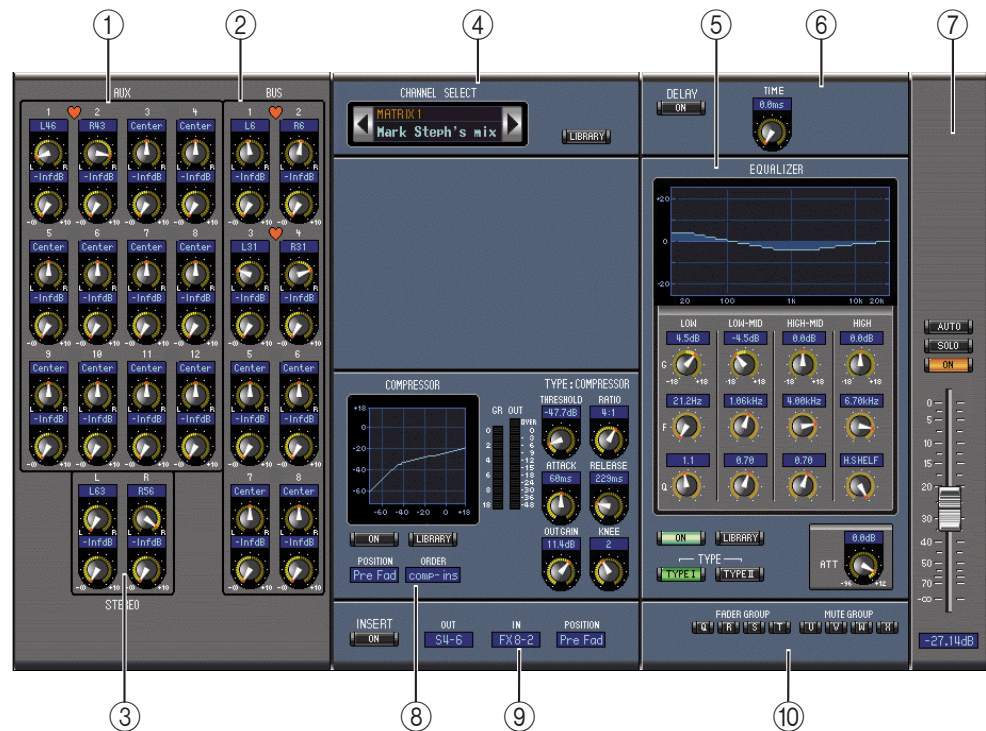


- ① CHANNEL SELECT セクション
チャンネルを選択するには、チャンネルIDをクリックして表示されるリストから選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。このセクションにはチャンネルのロングネームも表示され、これをクリックしてタイプすることで名前を変更することもできます。本ソフトウェアのバージョン1.0では「LIBRARY」ボタンは無効となっています。
- ② EQUALIZERセクション
ステレオアウトの4バンドパラメトリックイコライザー用のコントロール類とグラフが表示されています。これはインプットチャンネルのイコライザーセクションと同じです。23ページをご参照ください。
- ③ DELAYセクション
ステレオアウトのディレイ機能に使用するコントロール類が表示されます。回転ノブでディレイタイムを設定し、「ON」ボタンでディレイ機能をオン/オフします。
- ④ ステレオアウトパン/レベルセクション
ステレオアウトのパンコントロール、チャンネル「ON」ボタン、チャンネルフェーダーを表示します。本ソフトウェアのバージョン1.0では「AUTO」ボタンは無効となっています。
- ⑤ COMPRESSORセクション
このセクションにはステレオアウトのコンプレッサーのコントロール類とグラフが表示されています。インプットチャンネルのコンプレッサーセクションと同じです。ただし、ここには「LINK」ボタンはありません。23ページをご参照ください。

- ⑥ INSERTセクション
ステレオアウトのインサートに関するパラメーターを表示します。[INSERT] ボタンでインサートをオン/オフします。OUT/IN パラメーターでチャンネルのインサートアウト、インサートインを選択し、POSITIONパラメーターでインサートのチャンネル信号経路内での位置を指定します。
- ⑦ FADER GROUP/MUTE GROUPセクション
ステレオアウトをフェーダーグループ/ミュートグループに割り当てるボタンを表示します。

MATRIXセンド

以下の画面はMATRIXセンドの選択チャンネルウィンドウです。



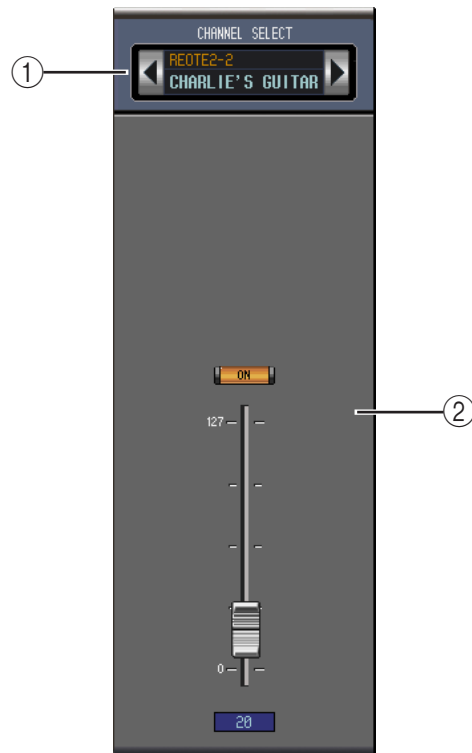
- ① AUXセクション
選択中のMATRIXセンドの、AUXセンドからの入力に関するコントロール類を表示します。回転ノブで各AUXセンドのパンポジションとMATRIXセンドへのレベルを設定します。ペアのAUXセンドはハートのマークで表示されます。
- ② BUSセクション
選択中のMATRIXセンドの、バスアウトからの入力に関するコントロール類を表示します。回転ノブで各バスアウトのパンポジションとMATRIXセンドへのレベルを設定します。ペアのバスアウトはハートのマークで表示されます。
- ③ STEREOセクション
選択中のMATRIXセンドの、ステレオアウトからの入力に関するコントロール類を表示します。回転ノブでステレオアウトのパンポジションとMATRIXセンドへのレベルを設定します。
- ④ CHANNEL SELECTセクション
チャンネルを選択するには、チャンネルIDをクリックして表示されるリストから選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。このセクションにはチャンネルのロングネームも表示され、これをクリックしてタイプすることで名前を変更することもできます。本ソフトウェアのバージョン1.0では [LIBRARY] ボタンは無効となっています。

- ⑤ EQUALIZERセクション
MATRIX センドの4バンドパラメトリックイコライザー用のコントロール類とグラフが表示されています。これはインプットチャンネルのイコライザーセクションと同じです。23ページをご参照ください。
- ⑥ DELAYセクション
選択中の MATRIX センドのディレイ機能に使用するコントロール類が表示されます。回転ノブでディレイタイムを設定し、[ON] ボタンでディレイ機能をオン/オフします。
- ⑦ MATRIXセンドレベルセクション
選択中の MATRIX センドのチャンネル[ON] ボタン、[SOLO] ボタンチャンネルフェーダーを表示します。本ソフトウェアのバージョン1.0では[AUTO] ボタンは無効となっています。
- ⑧ COMPRESSORセクション
このセクションには選択中のMATRIXセンドのコンプレッサーのコントロール類とグラフが表示されています。インプットチャンネルのコンプレッサーセクションと同じです。ただし、[LINK] ボタンはありません。23ページをご参照ください。
- ⑨ INSERTセクション
選択中のMATRIXセンドのインサートに関するパラメーターを表示します。[INSERT] ボタンでインサートをオン/オフします。OUT/IN パラメーターでチャンネルのインサートアウト、インサートインを選択し、POSITIONパラメーターでインサートのチャンネル信号経路内での位置を指定します。
- ⑩ FADER GROUP/MUTE GROUPセクション
選択中のMATRIXセンドをフェーダーグループ/ミュートグループに割り当てるボタンを表示します。

リモートチャンネル

以下の画面はリモートチャンネルの選択チャンネルウィンドウです。

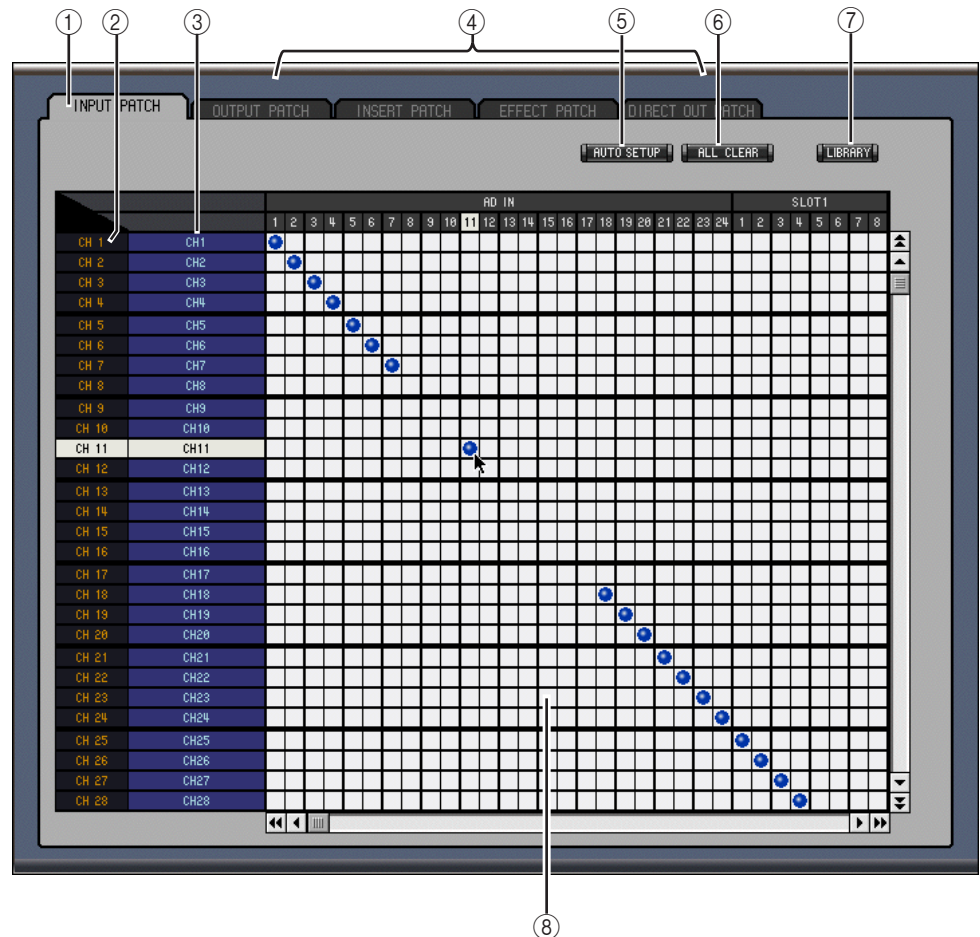
- ① CHANNEL SELECT セクション
チャンネルを選択するには、チャンネルID をクリックして表示されるリストから選択するか、左右矢印のチャンネル選択ボタンをクリックします。このセクションにはチャンネルのロングネームも表示され、これをクリックしてタイプすることで名前を変更することもできます。本ソフトウェアのバージョン 1.0 では[LIBRARY] ボタンは無効となっています。
- ② リモートチャンネルレベルセクション
選択中のリモートチャンネルのチャンネル [ON] ボタン、チャンネルフェーダーを表示します。



第4章 パッチエディターウィンドウ

パッチエディターウィンドウを開くには、「Windows」メニューから「Patch Editor」を選択します。このウィンドウは5ページあり、インプット/アウトプット、インサート、ダイレクトアウト、エフェクトのパッチに使用します。ウィンドウの一番上にあるタブをクリックしてページを選択します。

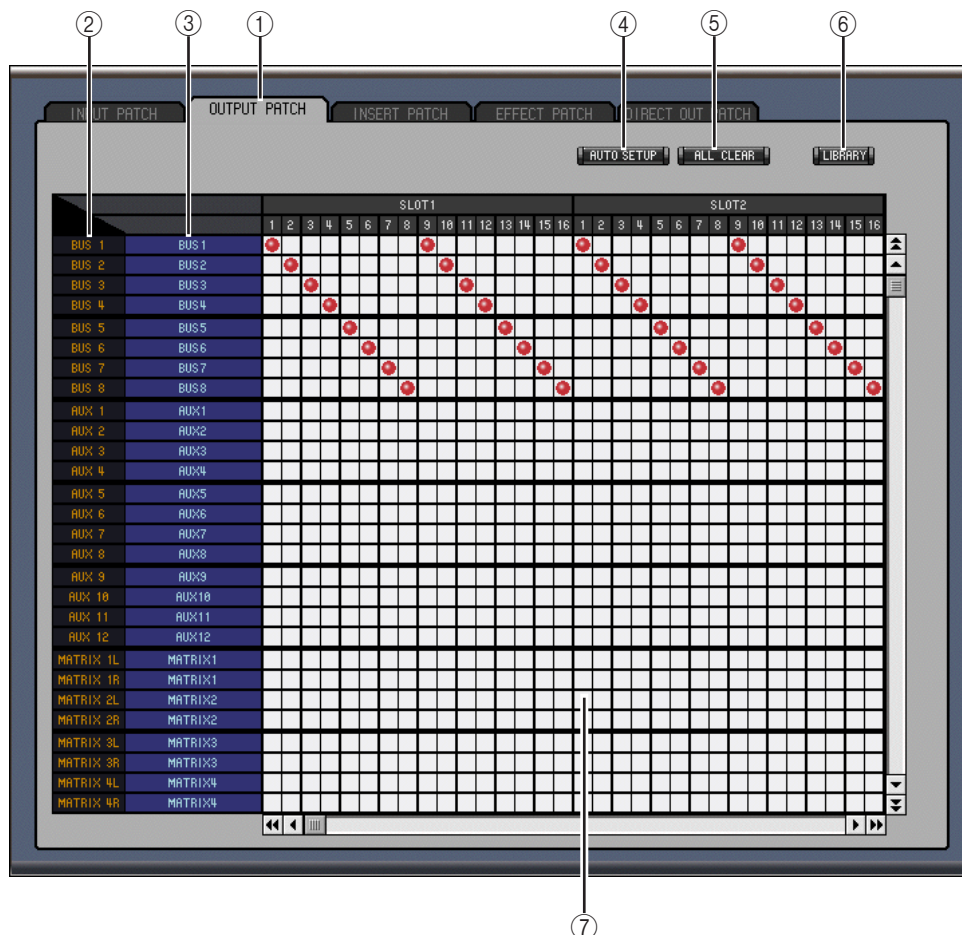
INPUT PATCHページ



- ① INPUT PATCHページタブ
INPUT PATCHページを選択するタブです。
- ② チャンネルID
チャンネルIDを表示する欄です。
- ③ ロングチャンネルネーム
ロングチャンネルネームを表示する欄です。これをエディットするには、名前をクリックしてタイプします。
- ④ ページタブ
パッチエディターウィンドウのその他のページを選択するタブです。
- ⑤ [AUTO SETUP]ボタン
新規セッションの初期設定に従って、インプットポートをインプットチャンネルにパッチします。
- ⑥ [ALL CLEAR]ボタン
このページのパッチをすべてクリアします。

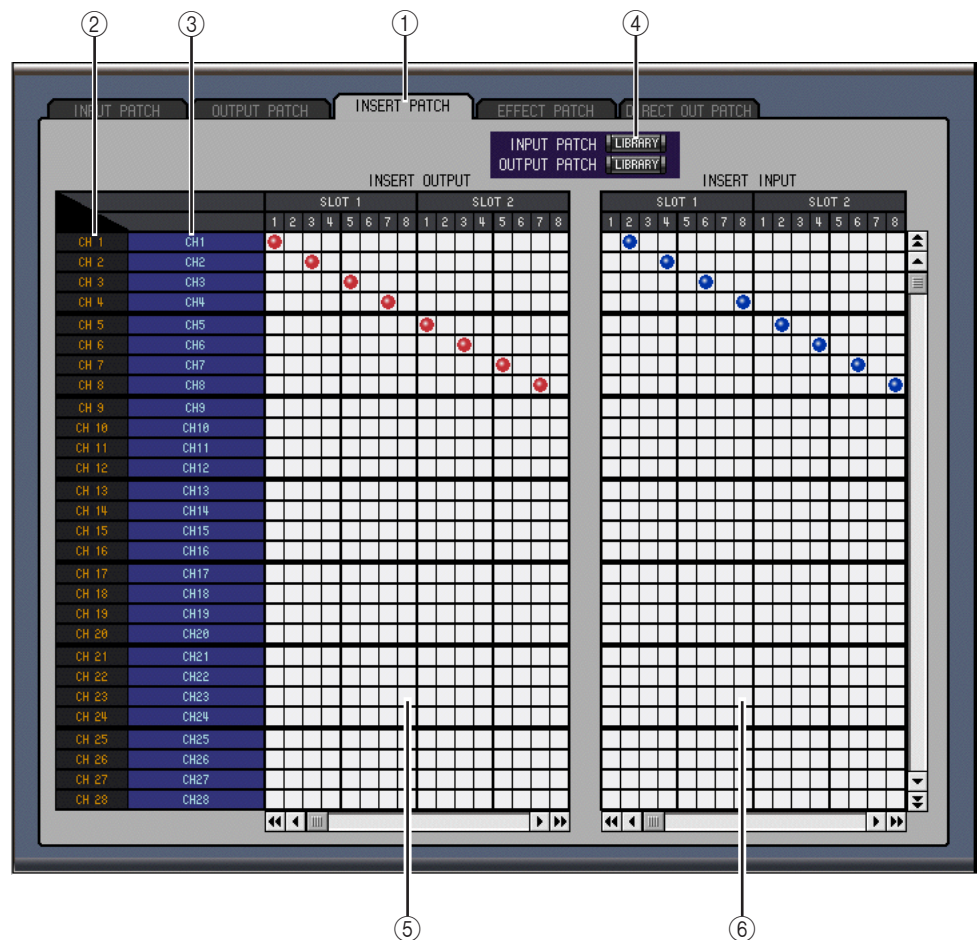
- ⑦ [LIBRARY]ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑧ パッチグリッド
このグリッドでインポートポートをインポートチャンネルにパッチします。希望のSLOTインポートとインポートチャンネルが交わるグリッドの中をクリックするとパッチできます。

OUTPUT PATCHページ



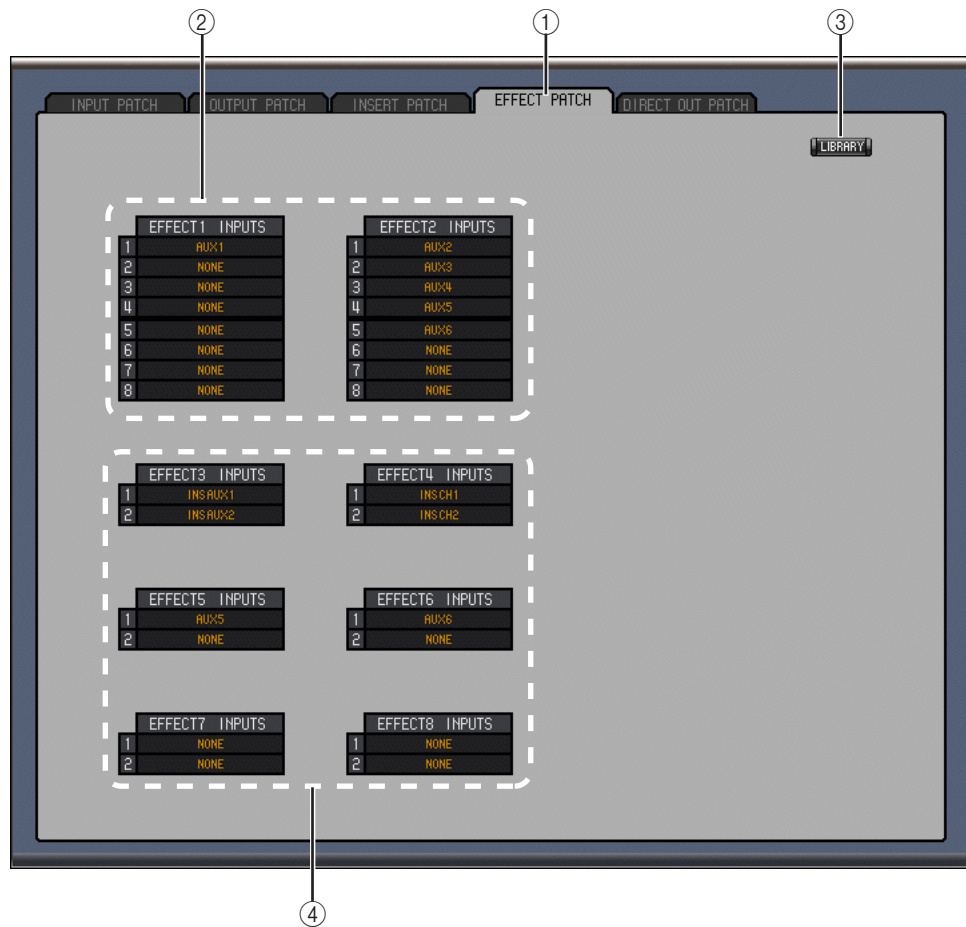
- ① OUTPUT PATCHページタブ
OUTPUT PATCHページを選択するタブです。
- ② チャンネルID
チャンネルIDを表示する欄です。
- ③ ロングチャンネルネーム
ロングチャンネルネームを表示する欄です。これをエディットするには、名前をクリックしてタイプします。
- ④ [AUTO SETUP]ボタン
新規セッションの初期設定に従って、アウトプットをアウトプットポートにパッチします。
- ⑤ [ALL CLEAR]ボタン
このページのパッチをすべてクリアします。
- ⑥ [LIBRARY]ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑦ パッチグリッド
このグリッドでアウトプットをアウトプットポートにパッチします。パッチすると赤い丸印が表示されます。

INSERT PATCHページ



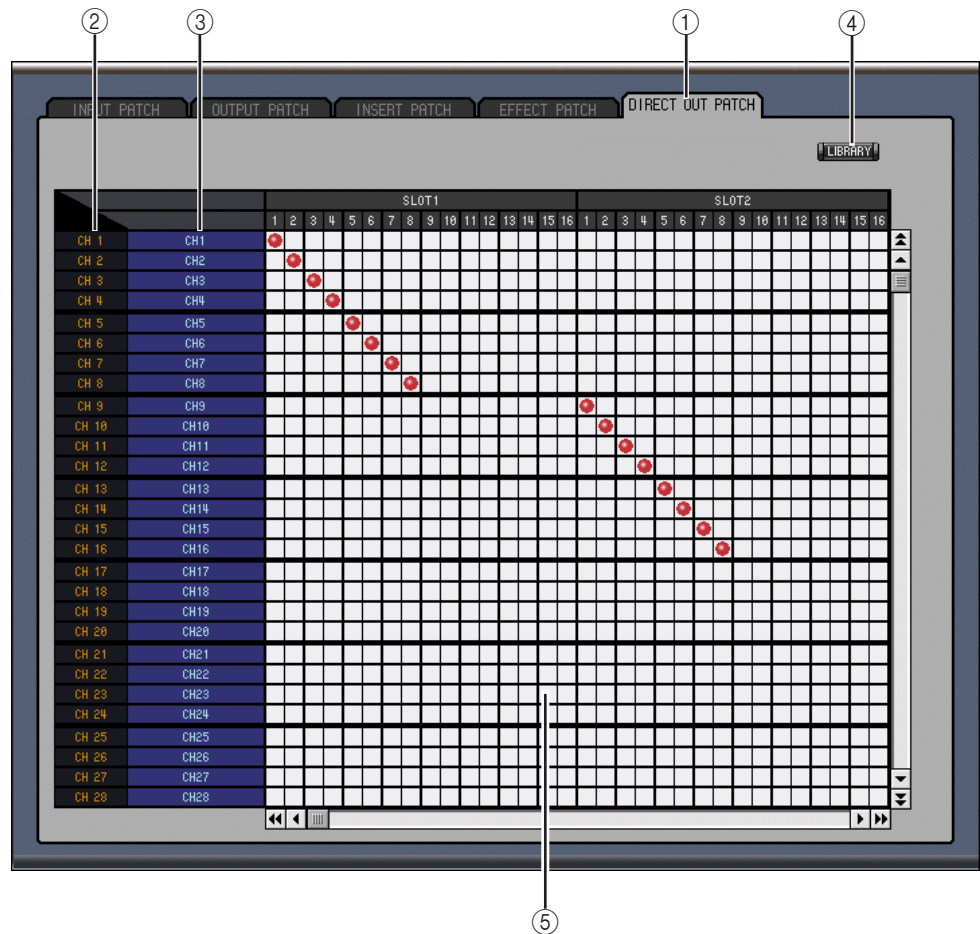
- ① INSERT PATCHページタブ
INSERT PATCHページを選択するタブです。
- ② チャンネルID
チャンネルIDを表示する欄です。
- ③ ロングチャンネルネーム
ロングチャンネルネームを表示する欄です。これをエディットするには、名前をクリックしてタイプします。
- ④ [LIBRARY] ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑤ インサートアウトパッチグリッド
このグリッドでスロットアウトプットをインプットチャンネル、バスアウト、AUX センド、MATRIXセンド、ステレオアウトのインサートアウトへパッチします。
- ⑥ インサートインパッチグリッド
このグリッドでインプットポートをインプットチャンネル、バスアウト、AUXセンド、MATRIXセンド、ステレオアウトのインサートインへパッチします。

EFFECT PATCHページ



- ① EFFECT PATCHページタブ
このタブでEFFECT PATCHページを選択します。
- ② エフェクトプロセッサ-1/2インプット
内蔵エフェクトプロセッサ-1,2のソースを選択します。
- ③ [LIBRARY]ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ④ エフェクトプロセッサ-3~8インプット
内蔵エフェクトプロセッサ-3~8のソースを選択します。

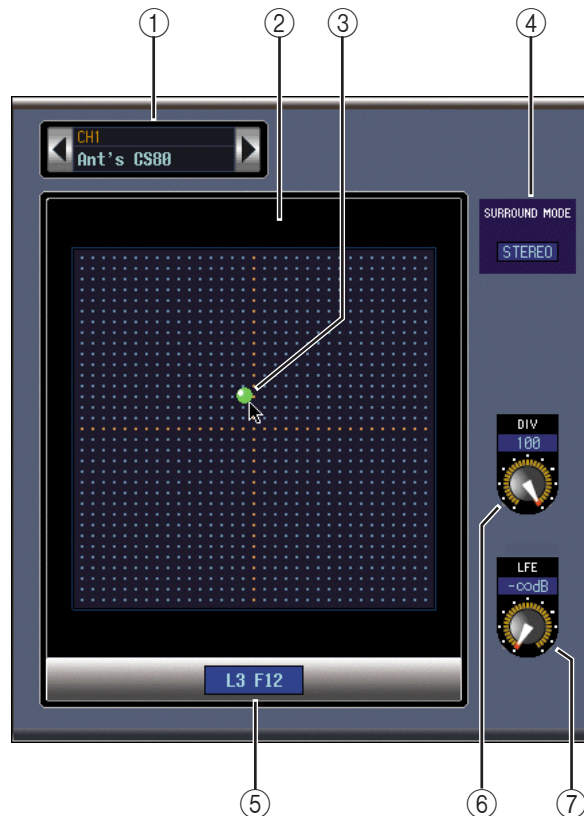
DIRECT OUT PATCHページ



- ① DIRECT OUT PATCHページタブ
DIRECT OUT PATCHページを選択するタブです。
- ② チャンネルID
チャンネルIDを表示する欄です。
- ③ ロングチャンネルネーム
ロングチャンネルネームを表示する欄です。これをエディットするには、名前をクリックしてタイプします。
- ④ [LIBRARY] ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑤ パッチグリッド
このグリッドでダイレクトアウトをアウトポートポートへパッチします。

第5章 サラウンドエディターウィンドウ

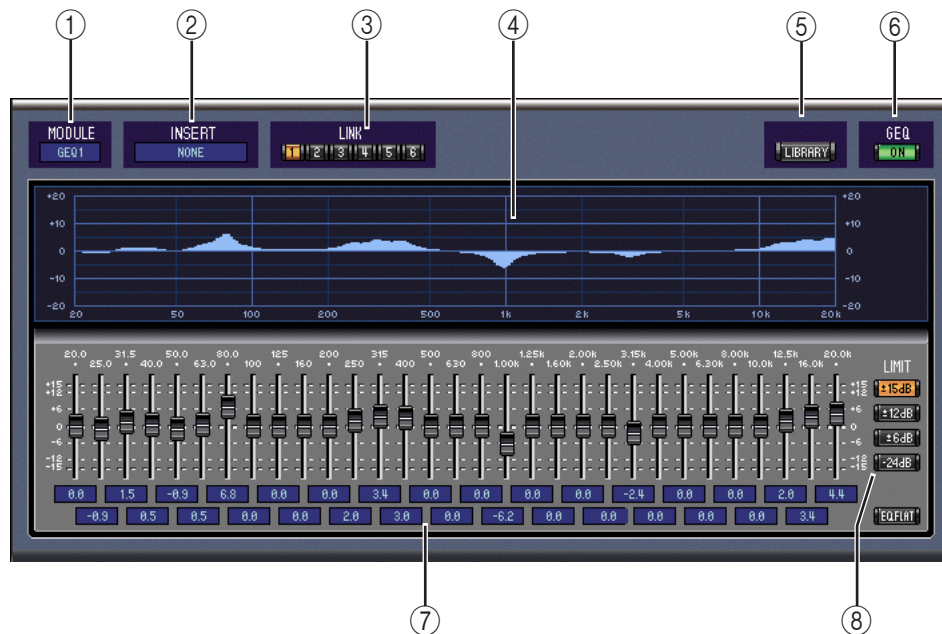
サラウンドエディターウィンドウを開くには、「Windows」メニューから「Surround Editor」を選択します。このウィンドウには、選択された入力チャンネルのサラウンドコントロールが表示されます。



- ① チャンネル選択セクション
このセクションには選択中の入力チャンネルのチャンネルIDとロングネームが表示されます。選択チャンネルウィンドウの CHANNEL SELECT セクションと操作は同じです。22 ページをご参照ください。
- ② バングラフ
部屋内のスピーカーの設置図を表示します。
- ③ サラウンドパンポジションの丸印
この丸印をドラッグしてサラウンドパンポジションを設定します。
- ④ SURROUND MODE
選択されているサラウンドモード (STEREO、3-1、5.1) を表示します。サラウンドモードの 3-1 と 5.1 は DM2000 上でのみ選択可能です。
- ⑤ サラウンドパンポジション
バングラフ上の丸印で示したサラウンドパンポジションの位置を、左右前後の座標上の値で表示します。
- ⑥ [DIV] コントロール
フロントセンターの信号を左、右、センターチャンネルに送る割合を設定します。
- ⑦ [LFE] コントロール
選択入力チャンネルの LFE レベルを設定する回転ノブです。

第6章 GEQエディターウィンドウ

GEQエディターウィンドウを開くには、「Windows」メニューから「GEQ Editor」を選択します。このウィンドウには、GEQのコントロール類が表示されます。



- ① MODULEパラメーター
GEQを選択します。
- ② INSERTパラメーター
選択GEQの挿入ポイントを選択します。
- ③ [LINK]ボタン
複数のGEQをまとめてリンクします。リンクされたGEQの設定は選択中のGEQにコピーされます。
- ④ GEQディスプレイ
- ⑤ [LIBRARY]ボタン
本ソフトウェアのバージョン1.0では無効となっています。
- ⑥ [GEQ ON]ボタン
GEQをオン/オフ(バイパス)します。オンになるとこのボタンが緑に点灯します。
- ⑦ GEQコントロールセクション
このセクションには各 GEQバンドのレベルをブースト/カットするコントロールがあります。このセクションの右下にある[EQ FLAT]ボタンをクリックすると、コントロール類をゼロの位置にリセットします。
- ⑧ [LIMIT]ボタン
GEQコントロールをブースト/カットする範囲を選択します。

第7章 タイムコードカウンターウィンドウ

タイムコードカウンターを開くには、「Windows」メニューから「Timecode Counter」を選択します。タイムコードカウンターウィンドウには、DM2000のAUTOMIX MAINページに表示されているタイムディスプレイ(時/分/秒/フレーム)または小節ディスプレイ(小節/拍/クロック)と同じフォーマットで、DM2000のタイムコードが表示されます。



第8章 キーボードのショートカット

以下の表はStudio Managerで使用できるキーボードのショートカットです。

ショートカット		動作
Windows	Macintosh	
「File」メニュー		
Ctrl+N	コマンドキー + N	新規セッションを作成します。
Ctrl+O	コマンドキー + O	既存のセッションを開きます。
Ctrl+S	コマンドキー + S	現在開いているセッションを保存します。新規セッションを保存する場合は、名前を入力するウィンドウが表示されます。
「Windows」メニュー		
Ctrl+W	コマンドキー + W	コンソールウィンドウ以外の Studio Manager の選択されているウィンドウを閉じます。
Ctrl+Alt+W	コマンドキー + オプションキー + W	コンソールウィンドウ以外の Studio Manager のすべてのウィンドウを閉じます。
Ctrl+1	コマンドキー + 1	選択チャンネルウィンドウを開閉します。
Ctrl+2	コマンドキー + 2	本ソフトウェアのバージョン1.0では対応していません。
Ctrl+3	コマンドキー + 3	パッチエディターウィンドウを開閉します。
Ctrl+4	コマンドキー + 4	サラウンドエディターウィンドウを開閉します。
Ctrl+5	コマンドキー + 5	タイムコードカウンターウィンドウを開閉します。
Ctrl+6	コマンドキー + 6	本ソフトウェアのバージョン1.0では対応していません。
Ctrl+7	コマンドキー + 7	GEQエディターウィンドウを開閉します。

索引

A

AUTO ボタン 17、20
 AUX センド 20、25
 プリフェーダー、ポストフェーダー 23
 レベルの設定 16、23
 AUX センドレベル 26

C

COMP ボタン 16、20

D

DELAY ボタン 16、20
 DIRECT ボタン 16
 DM2000 のポート設定 11
 DM2000 への接続 12

E

EQUALIZER 23
 EQ ボタン 16、20

G

GATE 22
 GATE ボタン 16
 GEQ
 INSERT 36
 GEQ エディターウィンドウ 36

I

INSERT ボタン 16、20

L

LAYER ボタン 18
 LFE レベル 17
 LIBRARY ボタン 22
 LINK ボタン 23

M

MATRIX センド 20、28

O

OMS 8
 セットアップ 10
 ONLINE/OFFLINE インジケーター 14
 ON ボタン 20

P

PAN CONTROL 18
 PHASE ボタン 16

R

Re-synchronize 14

S

SELECT ボタン 17、18、20、21
 SOLO ボタン 17、20
 STEREO ボタン 16
 Studio Manager の終了 13
 Synchronization 14
 System Setup ダイアログ 13

U

USB-MIDI ドライバー 8

Y

YAMAHA ホームページ i

い

インプットチャンネル
 コンソールウィンドウ 16
 選択チャンネルウィンドウ 22

お

オンライン / オフライン状態 14

き

キーボードのショートカット 38

こ

コンソールウィンドウ 15
 コンソールデバイス ID 13

さ

サラウンドエディターウィンドウ 35
 サラウンドパンポジション 17
 サラウンドモード 18

し

新規セッション 14、38

す

ステレオアウト 27

そ

ソフトウェア
 Macintosh 7
 Windows 3

た

タイムコードカウンターウィンドウ 37

ち

チャンネル
 CHANNEL SELECT 22
 チャンネルのロングネーム 22
 エディット 30
 名前の変更 22
 チャンネルメーター 17
 3-1、5.1 サラウンドモード 19
 ステレオアウト 18

と

動作環境 2

な

内蔵エフェクトプロセッサの選択 33
 名前の変更 17

は

バスアウト 20、24
 ステレオアウト 20
 バスアウトルーティング 16
 パッチ
 インプットソース 16、23
 ダイレクトアウト 16、23
 内蔵エフェクトプロセッサ 33
 パッチエディターウィンドウ 30

ふ

フェーダー
 AUX センド 20
 MATRIX センド 20
 インプットチャンネル 17
 ステレオアウト 18
 バスアウト 20
 リモートチャンネル 21
 フォローパン機能 23

へ

ヘア 24

ほ

ポート 12
 保存 38

ま

マスターセクション 18
 ONLINE/OFFLINE ステータスインジケーター 18

り

リモートチャンネル 29
 リモートレイヤーチャンネル 21

ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、<ソフトウェア使用許諾契約>を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

ディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。

ご同意いただけない場合は、未開封のまま速やかに(14日以内に)ご返却ください(ただし、本ソフトウェアをソフトウェアパッケージの一部として、またはハードウェア商品の付属ソフトウェアとしてお求めいただいた場合、本ソフトのみの返却はお受けいたしません)。

ソフトウェア使用許諾契約

1 著作権および使用許諾

弊社はユーザー登録されたお客様に対し、本ソフトウェアを構成するプログラム、データファイル及び今後お客様に一定の条件付きで配布され得るそれらのバージョンアッププログラム、データファイル(以下「許諾プログラム」といいます)を、お客様ご自身が一時に一台のコンピュータにおいてのみ使用する権利を許諾します。これらの許諾プログラムが記録されているディスクの所有権は、お客様にあります。許諾プログラム自体の権利及びその著作権は、弊社が有します。

2 使用制限

許諾プログラムは著作権を持つ情報を含んでいますので、その保護のため、お客様が許諾プログラムを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他の方法により、人間が感得できる形にすることは許されません。許諾プログラムの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、転売、頒布または許諾プログラムの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。許諾プログラムをネットワークを通して別のコンピュータに伝送することも許されません。

3 終了

本使用条件はお客様が許諾プログラムをお受け取りになった日に発効します。本使用条件による使用許諾は、お客様が著作権法または本使用条件の条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに許諾プログラムとその複製をすべて廃棄しなければなりません。

4 製品の保証

弊社は、お客様が許諾プログラムをお受け取りになった日から14日間に限り、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。

5 責任の制限

弊社は、許諾プログラムの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生や第三者からの賠償請求の可能性があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

6 第三者のソフトウェア

弊社は、本ソフトウェアとともに、第三者のプログラム、データファイルおよびそれに関するドキュメンテーション(以下「第三者ソフトウェア」といいます)を提供する場合があります。別の規定に従い取り扱われるべき旨の記載が、本ソフトウェア付随のマニュアルに記載されている場合には、本使用条件にかかわらず、その別の規定に従い取り扱われるものとし、弊社によるアフターサービスおよび保証などについては、以下の規定が適用されるものとします。

弊社は、第三者ソフトウェアに関しての操作方法、瑕疵その他に関してアフターサービスを提供するものではありません。

弊社は、第三者ソフトウェアの商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証を、明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。第三者ソフトウェアの使用もしくは機能から生じるすべての危険は、お客様が負担しなければなりません。

弊社は、第三者ソフトウェアの使用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害(データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む)については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

7 一般事項

本契約は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。

